



OVERSEAS

Africa — アフリカ —

海外事情

アフリカの好きなところ



岩合 美樹子 IWAGO Mikiko
八千代エンジニアリング株式会社/シニアアソシエイト

私は物心がついた時には、既にアフリカ大陸に憧れていました。幼い頃、父に寝る前に読み聞かせてもらっていたのはリヤカーを引きながらアフリカ大陸を旅した方の本で、小学生の頃にはアフリカで直接人々と触れ合った方々の本をたくさん読みました。私もいつかアフリカの人たちと一緒に何かをしてみたいと漠然と思っていました。大人になった今は電力分野のコンサルタントという自分らしい形を見つけて、1年のうち4~5カ月間をアフリカで過ごす生活を送っています。

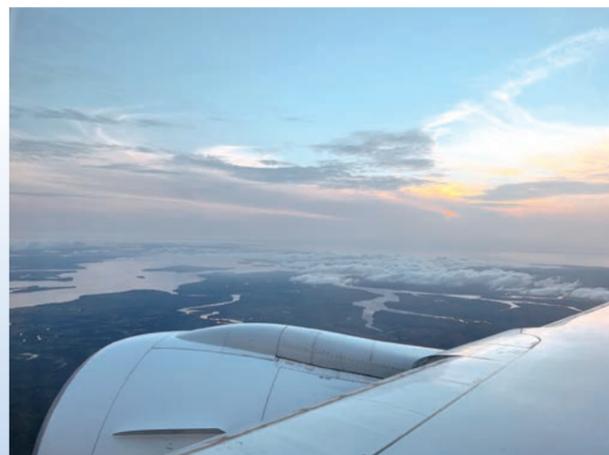
私のアフリカ生活はルワンダから始まり、タンザニア、セネガル、シエラレオネ、リベリアとサブサハラ・アフリカの国々を訪れました。ひとえにアフリカといっても国や地域によって国民性や文化は全く違い、話す言語も違い、その違いをありのまま受け止めて楽しみつづ、時には泣いて、時には笑い飛ばしながら試行錯誤しています。想像を超えてくる瞬間、とてもわくわくします。

アフリカと聞くと、戦争や貧困、難民、治安の悪さなど、とても厳しい様子を思い浮かべられる方が多

いと思いますが、決してそれだけではありません。私は実際に現地に行き人々と交流し、たくさんの愛情深い人たちと出会い、のんびりと流れる幸せな時間の中で喜怒哀楽を分かち合うことができました。今回は私が「おもしろい」「幸せ」と感じたことを皆さんとも共有できたいかなと思います。

空港で出会った人々 ～悪知恵合戦～

アフリカで最初に目に入ってくる光景は、飛行機の窓から見える広



飛行機の小窓から覗くと雄大な自然が出迎えてくれる



アフリカの夕日は大きくてきれい。見ているだけで涙が出てくる



道を通るにも動物優先。牛が通り過ぎるのを待っている



降雨後の道路はまるで川のように

大な大地や大きな夕日ではないでしょうか。日本の空港では地上に降りることなく、ボーディングブリッジを利用して直接ターミナルビルと飛行機の間で乗降することができますが、アフリカの空港では飛行機から降りたらバスまたは徒歩でターミナルビルまで移動することも多く、プチ見学のように楽しいです。

ターミナルビルに到着すると、ワクチン接種証明確認、入国審査、スーツケースの受け取り、と続いていきます。「ハローマイフレンド!」と笑顔で出迎えてくれて、なんていい人たちなのだろうかとか心が温くなるのも束の間、その都度様々な方法で金銭を要求されます。最初はよく分からず、ただただびっくりしましたが、エクセス(超過荷物)がなければ基本的に空港での支払いは発生しないため、今では「今度はどんな悪知恵が出てくるのかな?」と楽しんでいます。素直な人であれば「コーヒー飲みたいんだけど5ドルくれないうか、マイフレンド」と声をかけてくる感じで、コロナの検査を受けているときに検査官に耳元でささやかれたこともありました。入国審査では、お小遣い欲せないとパスポート返さないぞ、というトリック or トリー

トならぬマネー or パスポートにしばしば遭遇します。

最初は必死に対応しようとしてしまいましたが、今は英語が分からないふりをして「English Small Small Please」とパスポートを渡すときに言って交渉できない雰囲気醸し出し、顔写真撮影の際には女優さんの気分とどびりかawaii表情をし「You are beautiful!」と相手に言わせたら勝ち、というゲームを1人で勝手に楽しんでいます。空港から

出ると、わっと人が集まってきて、頼んでもいないのにスーツケースを運んで金銭を要求してきます。「No thank you」と言っても全然離れないので、最近は「I'm strong!!!」とマッチョポーズをするようにしています。初めて出会ったアフリカ人からも笑いをとれるようになりたいと思い、日々自己研鑽しています。

道路事情

日本の道路はきれいに舗装され



お昼ごはんを食べながら世間話。国際問題から恋バナまで



タンザニアのおやつは紅茶とキャッサバ。茶葉はそのままカップに入れる



干し魚。丸ごと天日干しておやつ代わりに食べたりスープに入れたり幅広く使えて便利

ていて、センターラインや停止線、信号があるのが当たり前で雨水もきちんと排水されますが、アフリカではまだまだ凸凹道が多いです。毎朝大きく揺られながら、車の排気管を陥没部にぶつけつつ、大雨が降った後はボートに乗っているような感じで走り抜けます。「これがアフリカンマッサージだぜ」と力強くハンドルを握りしめてゲラゲラ笑いながら駆け抜けていく姿や、「車は壊れても二人で押せば動くぜ」と力士張りの力で車を動かしている姿を見ると、アフリカ人のタフなハートと凄まじい身体能力を体感できます。道路にセンターラインはないですし、標識もなく、信号機はあっても電気がな

く点灯していなかったり、車間距離が50cmくらいしかなく、お互い接触しながら走行するのが当たり前、というような感じです。ただ、このような状況だとスピードを出して走ることができないので、車が人にぶつかったとしてもかすり傷で済むことが多いようです。

日本の中古車が多く走行しており「カーナビを英語表示に切り替えてほしい」とか、「GPSが機能していないのだけれどなんとかならないか」という相談をされることも多いです。ポチポチ触ってみますが期待に応えられないことが多いです。それでも「なんとかしようとしてくれてありがとう」と、お礼にバナナやバナ

ナチップやピーナッツをもらったりします。日本では運転アシスト機能付きの自動車が登場してきているので、「数年後にはアフリカにも運転アシスト機能付きの中古車が入ってくるんじゃない?」なんていう雑談をすると、ひゃっひゃっひゃっとして笑いながら「未来が来ちゃうぞー!」ととても楽しみにしている様子でした。

美容事情

私がいつもうらやましいなと思っているのは、くるんとしたまつ毛です。髪の毛がくるくるしていることはご存じの方が多いと思いますが、びっしり生えたまつ毛も生まれながらにくるんとしていて、まつ毛パーマいらずでとてもかわいいです。私が毎月5,000円かけてまつ毛パーマをかけている話をすると、大ウケしつつ「もっと自分や家族のためになることにお金を使いな」とアドバイスされます。ごもっともです。

髪型は剃刀で剃るか、カラフルなエクステと共に編み込みかですが、編み込みやエクステには様々なバリエーションがあり、行事毎に髪型を変えている人が多いです。また、お



地引網や小舟での漁業が主流



水汲みをしている子どもたち。突っ掛けのサンダルをはいている



ふいに道端に咲いているお花やブレスレットをプレゼントしてくれる。ときめきをありがとう



様々な夢を話してくれる子どもたち。頑張ろうと思える瞬間

しゃれなかつらも一般的で、毎日その日の気分で服や靴を選ぶのと同じように、かつらも変えていて、ファッションの一部として髪型を楽しんでいることがよくわかります。だいぶ印象が変わるので、たまに人を間違えてしまうくらいです。

また、歯ブラシの代わりに木の棒で歯磨きする人たちもいます。アフリカ人の歯が真っ白くて強いのはそのおかげなのでしょう。とても不思議で昼食後に木で歯磨きする様子を眺めていたところ、ドライバーが「お前もやってみるか?」と自分が磨いていた木を口から出して私に手渡そうとしてくれました。親切心はありがたかったのですが、丁重にお断りしました。

愛情深さ

アフリカ人の根底には「愛が全てを解決する」というマインドを感じます。家族や友人、コミュニティ、そして自分自身を愛することが、人生をいかに豊かにするかということを感じていて、いつもアフリカに行くとも心がポカポカします。毎朝笑顔で「おはよう? 元気?」と

握手しながら出迎えてくれるとても安心します。顔についた油をふき取ってくれたり、足元が悪い時に「Safety Safety」と声をかけながら手を貸してくれたり、落ち込んでいるときにアフリカの動物やマサイ族の話をして笑わそうとしてくれたり、誕生日にはバースデーソングを4番まで作ってゴスペル風に歌ってくれて、その後一緒にダンスをしたり、人の温かさをたくさん感じました。

滞在中、一緒にお昼ごはんを食べることもありますが、その中で人々の生活や人生、世の中の問題について雑談することもあります。人生に悩んでいたときに「生活に困ったらいつでもアフリカにいればいいよ。アフリカならどこか庭付きの家を借りて、そこにバナナやココナッツなど食べ物が取れる木を植えれば自然に育つから、それをご近所の人と別のものと交換したり、マーケットで売ったりして生活できるから。人生いろいろなことがあるけれど、なんとかなるから」と話してくれて、とても心が軽くなったことを覚えています。電気が使えないことを前提として保存食として干物を作ってい

たり、電柱を柱代わりにして家や商店を建てていたり、雨漏りやパンクはビニール袋を詰めて補修していたり、アフリカは知恵の宝庫で、足るを知っていて、いつも多くの学びがあります。

ただ、経済的に厳しいのも事実で、サッカー好きの人が多くですが、突っ掛けのサンダルしか買えない人も多く、サッカーをしたいからつま先部分がある普通の靴が欲しいと子どもたちにせがまれた時には心が痛みました。インフラ整備をしてたくさん勉強できる環境を整える手助けをすることで、いつか子どもたちが靴に困らない時代を築けたらいいなと願っています。

第二の故郷

アフリカが生活環境的に私たち日本人にとっては厳しいこともあるのは間違いありませんが、彼らの温かさや愛情深さには心の底から救われています。私にとってアフリカは第二の故郷のようなとても大切な場所です。日本から行くにはちょっと遠いですが、是非その豊かさをみなさんも味わってみてください。